

コレクション展  
磁州窯の陶枕

会期：2021年1月9日（土）～2月7日（日）

磁州窯は、宋～元時代にかけて華北一帯で隆盛した、中国で最大規模を誇る民間の窯です。やきもの製の枕、すなわち陶枕は、その代表的かつ特徴的な器種の一つです。磁州窯では各種の装飾技法が発展したこともあり、陶枕には枕面をキャンバスとしてさまざまなデザインが施されました。

日本では初夢に見ると縁起がよいのとして「一富士二鷹三茄子」という句がよく知られていますが、当時の中国の人々はどんな夢を願ったのでしょうか。枕にあらわされた文様からひもといってみましょう。

出品リスト

※大阪市立美術館第17陳列室

作品名	生産地・作者	時代	所蔵
白地搔落 牡丹文如意頭形枕	磁州窯、伝鉅鹿出土	北宋時代 11-12世紀	本館蔵
白地搔落 唐草文長方形枕	磁州窯	北宋時代 11世紀	本館蔵 山口コレクション
白地魚子地 牡丹文豆形枕	磁州窯系	北宋時代 11世紀	個人蔵
白地魚子地 牡丹文豆形枕	磁州窯系	北宋時代 11世紀	本館蔵
白地鉄絵 花卉文八角形枕	磁州窯系	金時代 12-13世紀	個人蔵
白地鉄絵 花文如意頭形枕	磁州窯系	元時代 14世紀	本館蔵 山口コレクション
白地搔落 束蓮文八角形枕	磁州窯系	北宋時代 11世紀	本館蔵 山口コレクション
三彩 花文豆形枕	磁州窯系	金時代 12世紀	個人蔵
緑釉 束蓮文豆形枕	磁州窯系	金時代 12-13世紀	本館蔵
三彩 魚藻文長方形枕	磁州窯系	金時代 13世紀	本館蔵 山口コレクション
三彩 庭園図長方形枕	磁州窯系	金時代 12-13世紀	本館蔵 山口コレクション
白地鉄絵 山水図楕円形枕	磁州窯	元時代 14世紀	個人蔵
白地鉄絵 水禽図豆形枕	磁州窯系	元時代 14世紀	本館蔵 山口コレクション
三彩透彫 獅子文長方形枕	磁州窯	金時代 12-13世紀	個人蔵
石造 虎形枕		宋時代 10-13世紀	本館蔵 山口コレクション
白釉 獅子形枕	磁州窯	北宋時代 11-12世紀	
白地搔落 牡丹文豆形枕	磁州窯系	北宋時代 11-12世紀	
白地黒搔落 鳥樹文如意頭形枕	磁州窯系	金時代 12世紀	本館蔵
菊花文禽図	沈周 (1427-1509)	明時代 正徳4年 (1509)	本館蔵 阿部コレクション

※リストの順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。





磁州窯関連 中国古窯址地図



磁州窯と磁州窯系

本作品リストの生産地欄には、「磁州窯」と「磁州窯系」とある。何が違うのだろうか。磁州窯とは、上の地図の□で囲んだ地点、河北省邯鄲市の観台鎮と彭城鎮に位置する窯場である。ここでは灰色の素地に白化粧を施した、民間の日用のやきものが作られた。磁州窯は大規模な窯場でここだけでも大量のやきものが作られているが、同様の製品を焼く窯は、河北省のみならず河南省、山東省、山西省、陝西省など華北一帯に広がって存在する（地図内▲印）。そのため、現在に伝わる作品の正確な産地の特定は難しい。そこで、磁州窯と同様の製品を焼いた窯々をすべてひっくるめて「磁州窯系（諸窯）」と総称している。

とはいえ、それぞれの窯址の発掘調査が進むにつれて、窯や地域ごとの特徴が徐々に明らかになってきており、「磁州窯系」のより具体的な様相が明らかにされつつあるところである。

なお、本作品リストで「磁州窯」としたのは、20世紀初頭より行われている磁州窯の考古発掘によって、類品が発見されている作品である。